

農村の生き物たち

啓蟄(けいちつ 2015年は3月6日)という、土の中で冬眠していた虫やカエルが、そろそろ春を感じて動き始める頃とされます。アカガエルの仲間は、この頃には、すでに産卵のために活動しています。

ニホンアカガエルは、早春に、水田の「わだち」にできた水たまりなどで産卵します。産卵した後の親ガエルや、その年生まれの子ガエルは、水田を離れ、里山の林などで生活します。このため、水田と林の両者の環境が好ましいこと、さらに両者の間を移動できることが、このカエルの生息には重要です。コンクリート水路は、落ちたカエルが脱出できず、移動を妨げてしまいます。これを防ぐため、カエルが落ちないように水路に蓋をかけるなどの対策が行なわれています。

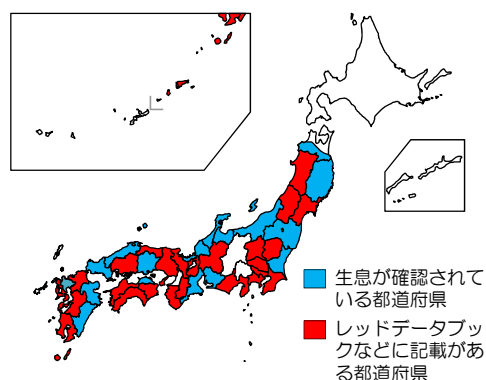
両生綱 無尾目 アカガエル科 アカガエル属

ニホンアカガエル *Rana japonica*

日本赤蛙



生息分布



環境省レッドリストの記載：—

特徴

- ▶ 体長*は3~7cm。オレンジ~茶色で、背中に2本の平行な筋があります。
*カエルでは、吻(口先)~総排出口(尻)までの長さ。
- ▶ 普段は里山の林や草地で生活しています。
- ▶ 1月~4月に、水田などでゼリー状の卵塊を産みます。1つの卵塊には、500~3,000の卵が入っています。
- ▶ 幼生(オタマジャクシ)の背中には、2つの黒い点があります。



近縁種

- ▶ ヤマアカガエルは、背中の筋が鼓膜の後ろあたりでいったん切れるか、V字型に折れ曲がります。また、卵塊はニホンアカガエルよりも固まり方が緩い(トロットしている)ので区別できます。
- ▶ エゾアカガエル、リュウキュウアカガエルなど、国内外に、さまざまな「アカガエル」がいます。

生態系における位置づけ

- ▶ 幼生も変態以降のカエルも、大型の捕食者(サギ類やヘビ類、イタチなど)の重要な餌です。
- ▶ 主に水田で産卵し、変態すると、林などに移動するため、水域と陸域の片方の環境が悪化しても、生息できません。

人との関わり

- ▶ かつては串焼きなどにして食べられていて、「牛肉に匹敵する美味しさ」という記載もあります。
- ▶ アカガエルなどを原料とした「赤蛙丸(あかひきがん)」は、小児の疳の虫の妙薬として知られていました。

保全に向けて

- ▶ コンクリート水路は、落ちたカエルが脱出できません。対策として、カエルが落ちないように水路に蓋をかけるなどの取り組みが行なわれています。
- ▶ 乾田化した水田でも産卵できるよう、冬期湛水などの取り組みが行なわれています。

コンクリートの壁を登ろうとするニホンアカガエル

